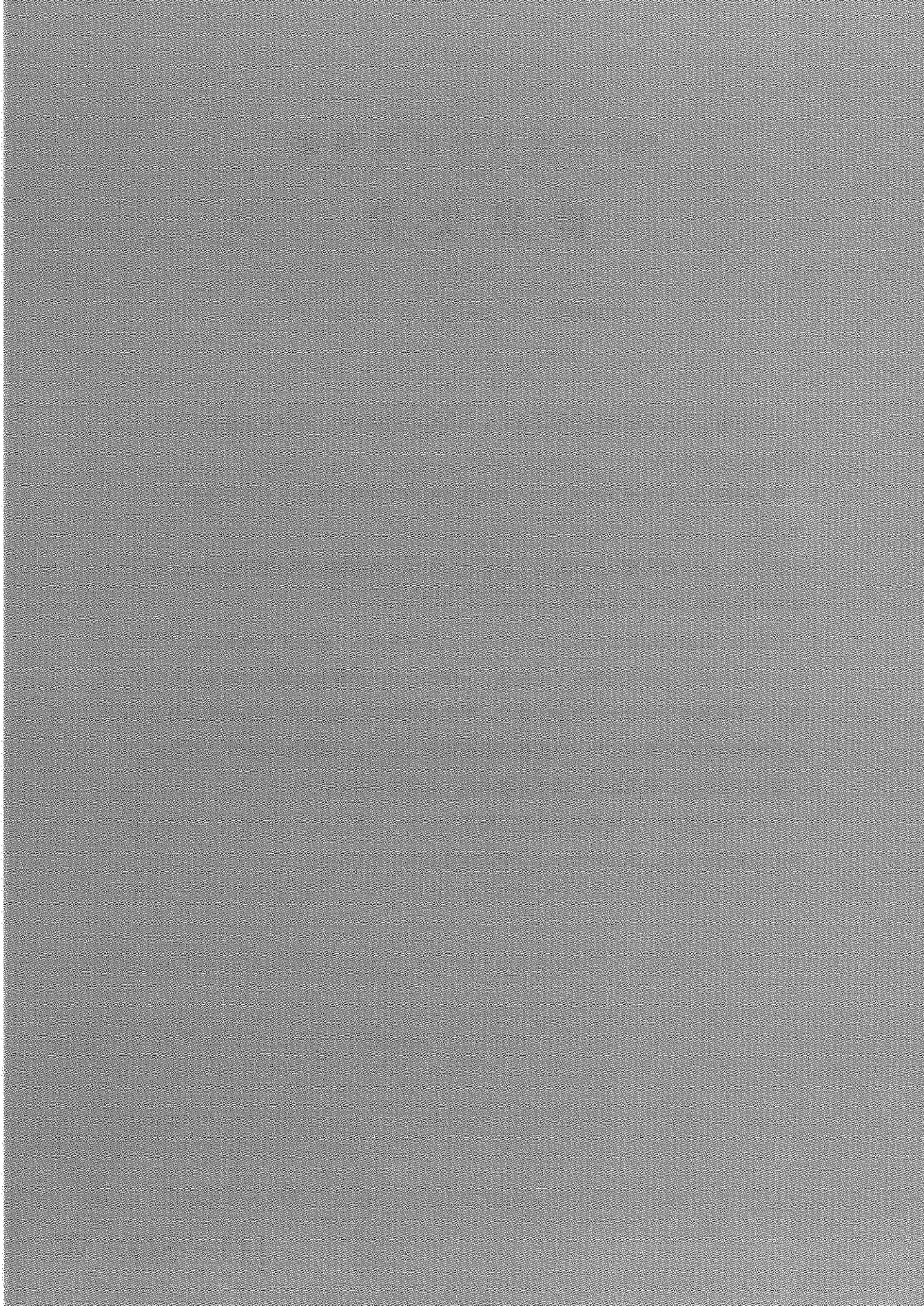


## 2015 年度 入学 試験 問題

# 世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、**HB**の鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I つぎの文章 (A~D) は、中国の主要民族である漢民族について述べたものである。文章をよく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

A 現在中国の人口の90%以上を占める漢民族は、世界で人口規模が最大の民族集団でもある。彼らは長い年月の間にその居住域を広げ、周辺の異民族を駆逐または同化しながら現在の規模になった。

今日の漢民族は、殷・周などの古代王朝の主要民族の末裔であるといわれている。春秋・戦国時代を経て、前221年に秦王政が東方の6つの国家を征服して、中国にはじめて統一国家をうちたてた。秦は長続きしなかったが、それに続く前漢・後漢王朝の統治は約400年におよんだ。漢民族の「漢」とは、この漢王朝にちなんでいる。前漢の武帝の積極的な對外拡張政策は、漢民族の拡大におおきく関係している。<sup>(a)</sup>たとえば、北方の遊牧民族( 1 )への対策としての移民もおこなわれた。しかし、この政策で、前漢は財政難におちいることになる。<sup>(b)</sup>

B 魏晋南北朝時代は、北方異民族の黄河中流域への積極的な進出に押し出される形で、漢民族が長江中下流域へさらに進出し、漢民族の重心がはじめて南方に移った時期である。

弱体化しつつあった後漢は、184年におきた黄巾の乱によってさらに国力が弱まり、220年に魏によって滅ぼされる。以降、魏・呉・蜀が鼎立した三国時代ののち、西晋による短い統一期間をはさみ、中国は南北に分裂する。

北方では、そのときすでに五胡と総称される異民族が華北に移住していたが、その勢力が強まったのは、西晋末におきた王族の争いである( 2 )のあとであった。そして、西晋は最終的に、五胡のひとつである( 1 )出身の劉曜等によって滅ぼされたのである。その後、北方では異民族を含む多くの政権が興亡したが、鮮卑の( 3 )氏が建てた北魏が最終的に北方を統一し、ここに南北朝時代が始まった。北魏は、孝文帝の時代に制度や風俗について積極的な漢化政策をとった。<sup>(c)</sup>異民族がみずから漢民族に同化する道をえらんだのである。しかし、これが軍人などの反発を招き、北魏は分裂することになる。

一方、晋の一族の司馬睿は江南に逃れ、現在の南京を都に定めて、ここに晋(東)<sup>(d)</sup>

晋)を再興した。これ以後、この地が南朝の都になった。また、100万人近い漢民族も晋の一族とともに長江をわたって江南に移住した。これによって、長江中下流域の開発が進み、漢民族の人口は南方でおおきく増加することになる。

C 隋唐時代は、組織的な大規模移民政策はあまり見られなかったものの、戦乱などを契機に、漢民族の2度目の大規模な南方への移動がおきている。

中国の分裂状態は、隋の楊堅が589年に南朝の(4)を併合し、全国を統一したことで終わりを告げる。隋は短命であったが、そのあとを引き継いだ唐は、滅亡する907年まで300年近く続いた。隋・唐はいずれも北方異民族系の王朝であり、隋を開いた楊堅も、唐を開いた李淵も鮮卑と関係があった。

唐は多くの国々と活発に交流し、貿易も盛んであった。それゆえ国外からも多くの人々が唐にやってきた。たとえば、日本人の(5)は玄宗に重用され、鎮南都護府の長官にもなっている。また、唐の武将であった高仙芝は高句麗出身であり、さらに、8世紀半ばにおきた安史の乱の首謀者である安祿山と史思明はソグド系であった。この安史の乱を契機に、再度南方への大規模な移民がおき、それは五代十国の時代まで続いた。

D 宋代以降も、北方からの異民族の南下はあいつぎ、いくつもの異民族王朝が建てられた。一方、それとともに漢民族の南方への移住もすすんだ。明清期には、さらに海を越えて台湾や東南アジアにも移民がおこなわれた。

宋(北宋)は、金による靖康の変で1127年に滅んだが、江南に逃れた高宗が臨安で宋王朝を再建した。このできごとによって再び漢民族の大規模な南下がおき、人口は長江流域から華南に広がった。このときの移民の規模は、西晋末の(2)から永嘉の乱、そして唐代の安史の乱のときの規模にならぶものである。

明末清初には、漢民族が本格的に海を渡り台湾にいたった。この契機は、明の遺臣(6)が台湾を反清復明の基地としたことである。このとき以来、多くの漢民族が台湾に入植した。また、明代ごろからは東南アジアへの移民もおこなわれ、さらに19世紀のゴールドラッシュのときには、アメリカにも多くの漢民族が移民している。

設問1 空欄(1～6)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問2 下線部(a)について。武帝の時代に設置した郡ではないものは、つぎのうちどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 交趾      ② 真番      ③ 南海      ④ 帯方      ⑤ 敦煌

設問3 下線部(b)について。財政難の打開策としてとった経済政策の1つである均輸法について、35字以内で説明しなさい。

設問4 下線部(c)について。孝文帝のおこなった漢化政策に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. 鮮卑に特有な服装を禁止した。  
い. 鮮卑のことばと漢民族のことばの併用を推進した。  
う. 魏・晋の土地制度を参考にして、均田制を実施した。

設問5 下線部(d)について。当時の名称は何とあったか。その名称を答えなさい。

設問6 下線部(e)について。この生産力を背景に江南では貴族文化が栄えたが、その中で、歴代の名文・詩歌を集めた詩文集である『文選』を編纂したのは誰か。その名前を答えなさい。

設問7 下線部(f)について。隋・唐ののちに成立し、これらとは系譜的に異なるとされる王朝は、つぎのうちどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 北斉      ② 西魏      ③ 北周      ④ 東魏      ⑤ 後周

設問8 下線部(g)について。この時期、海上貿易をつかさどる役所は何と呼ばれたか。その名称を答えなさい。

設問9 下線部(h)について。靖康の変で金にとらえられた宋の皇帝は誰か。その名前を答えなさい。

設問10 下線部(i)について。この時期の開発に関する記述として、誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 新興の地主層である形勢戸は干拓や水田の造成をおこなった。
- ② 「湖広熟すれば天下足る」と形容されている。
- ③ 占城稲という稲の品種がベトナムから伝えられた。
- ④ 茶の栽培が盛んになり、喫茶の風習が普及した。
- ⑤ 低湿地に大堤防で囲った「圃田」などの水田がつくられた。

設問11 下線部(j)について。東南アジア各国には多くの中国系移民（華人）が居住している。なかでも華人人口が多数を占めており、1965年に独立したのはどこか。その名称を答えなさい。

II つぎの文章 (A~D) は、イラン (ペルシア) 系の諸国や王朝の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

A 前7世紀前半にオリエントを統一し、最初の「世界帝国」とも呼ばれるアッシリア帝国は、前7世紀末には服属民の反乱と周辺諸国の攻撃によって滅んだ。その後、オリエントには4つの王国が分立することになる。4王国の分立状態に終止符を打ち、オリエントを再び統一したのがアケメネス朝ペルシアである。

<sup>(a)</sup>  
アケメネス朝の建国者 ( 1 ) は、4王国の1つでイラン地方を支配していた ( 2 ) を前6世紀半ばに滅ぼすと、続いて他の2王国を滅ぼし、帝国の基礎を築いた。第2代カンビュセス2世の時代には、残る最後の1王国を征服してオリエントの再統一をなしとげた。第3代ダレイオス1世は、帝国の領土を約20州にわけ、それぞれにサトラップと呼ばれる州の長官をおくとともに、この長官を監視するために「王の耳」「王の目」と呼ばれる王直属の監察官を派遣した。また、王都と地方を結ぶ「王の道」と呼ばれる道路を建設して国内の交通基盤を整備した。

アケメネス朝ペルシアは、ダレイオス1世の時代に始まったペルシア戦争において数度にわたってギリシア遠征をおこなったが最終的には失敗に終わった。しかし、その力はなお衰えず、前330年に ( 3 ) に滅ぼされるまで帝国は維持されたのである。

B ( 3 ) の死後、イラン地方は彼の部将が建てたセレウコス朝の支配下におかれたが、カスピ海東南部でイラン系の遊牧民が ( 4 ) を建国し、徐々に領土を拡大するとともに東西交易の利益をえて栄えた。( 4 ) は当初、ヘレニズムの影響を強く受けていたが、次第にペルシア語を公用語とするなど、伝統的なイラン文化を重視するようになった。興隆した ( 4 ) は、セレウコス朝を滅ぼしたローマとも争ったが、3世紀前半、同じイラン系のササン朝に滅ぼされた。ササン朝もまたローマをはじめとする周辺諸国と抗争を繰り広げ、第2代シャープール1世の時代にはシリアでローマ軍を破り皇帝 ( 5 ) を捕虜とした。ササン朝は、6世紀のホスロー1世の時代に最盛期を迎えるが、その後は次第に衰え、642年にイラン西部の ( 6 ) でイスラーム軍に破れ、まもなく滅亡した。

C ムハンマドの死後、イスラーム共同体の指導者としてカリフが選ばれるようになった。第4代カリフのアリーが暗殺されると彼とその子孫だけを指導者と認める分派としてシーア派が成立した。シーア派はさらにいくつかの分派に分かれたがその中でも多数派となったのが(7)派であった。16世紀におこり、この(7)派を国教としたのがサファヴィー朝<sup>(c)</sup>である。スンナ派のオスマン帝国などと争う一方、サファヴィー朝の国王はペルシア語で王を意味する(8)の称号を用いることでイラン人としての民族意識の高揚をはかった。1587年に即位したアッバース1世の時代に最盛期を迎え、首都のイスファハーンを中心におおいに栄えた。

D 18世紀前半にサファヴィー朝が減ぶと、イラン地方はおよそ2世紀にわたってトルコ系の王朝によって支配されることとなった。18世紀末に成立した(9)朝は、南下するロシアとこれを警戒するイギリスとの間での勢力争いの場となった。外国勢力による影響力の拡大と政府の外国勢力への屈従に反発した民衆は、19世紀半ば以降、反乱<sup>(d)</sup>や商品のボイコット運動をおこすなどして抵抗を続けた。20世紀に入ると、憲法の制定と議会の開設を求める革命運動がおこる。国王はこれに屈し、1906年に国民議会が招集され憲法が成立したが、ロシアとイギリスの介入を受けて革命は完遂されずに終わった。

第一次世界大戦中、(9)朝は中立の立場をとったが、ロシアとイギリスの占領下におかれた。1921年に軍人の(10)がクーデターをおこし、1925年には自らパフレヴィー朝をおこした。彼は立憲君主制に基づく近代国家の建設につとめた。またペルシアという伝統的な国名を廃して、イランと改めた。イランは、第二次世界大戦中も中立の立場を表明していたが、ソ連とイギリスの駐留を許した。こうした外国勢力の動きを背景として、イランでは民族主義が高揚したのである。<sup>(e)</sup>1960年代になると、第2代国王パフレヴィー2世がアメリカと連携して近代化を推進した。しかし、急進的な改革と貧富の格差の拡大で国民の反発を招き、革命が勃発した。1979年、パフレヴィー2世が国外に逃亡すると、フランスに亡命していたシーア派の指導者ホメイニが帰国し、イスラーム法を基盤とした宗教色の強い国家建設が始まった。



設問 1 空欄 (1～10) に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問 2 下線部(a)について。アケメネス朝ペルシアの統治の仕方は、それより先にオリエント世界を統一したアッシリアと比べて、服属した諸民族の処遇において異なっていた。そのようなアケメネス朝ペルシアの服属民統治の特徴を、25 字以内で説明しなさい。

設問 3 下線部(b)について。ササン朝ではゾロアスター教が国教となり、教典の編纂事業がおこなわれた。このとき編纂された教典は何か。その名称を答えなさい。

設問 4 下線部(c)について。サファヴィー朝を含む多くのイスラーム王朝では、軍務を担う軍人への俸給を確保するために、軍人に分与地の管理・徴税権を与え、そこから俸給にみあった収入を得ることを認めた。こうした制度は、10 世紀から 11 世紀にかけてイラク・イラン地方を支配したブワイフ朝の時代にはじまったものである。ブワイフ朝がはじめたこの制度の名称を答えなさい。

設問 5 下線部(d)について。反乱に参加した民衆の間には、19 世紀にイランでおこったシーア派系の新宗教の信徒が多数含まれていたが、反乱が政府によって鎮圧されると信徒は激しい迫害を受けた。この新宗教の名称を答えなさい。

設問 6 下線部(e)について。1951 年に就任した首相は、イギリス系の石油会社アングロ=イラニアン石油を国有化した。この民族主義を背景とした国有化を実施した首相は誰か。その名前を答えなさい。

III つぎの文章（A～D）は、大英博物館とその収蔵品について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。（34点）

A 博物館の歴史は古代にまでさかのぼる。プトレマイオス<sup>(a)</sup>1世がエジプトの（ 1 ）に設立したムセイオンは、図書館をそなえた王立研究所であった。ムセイオンという言葉は、もともとギリシア神話の女神ムサイの祠堂という意味であったが、ミュージアムの語源といわれ、このエジプトのムセイオンが博物館の起源とされることもある。しかし、博物標本などを大量に収集し、それらを展示する博物館というものは、自然科学が著しい発展をとげた科学革命の時代の産物である。オクスフォード大学のアシュモレアン博物館は、好古家であったアシュモールが1677年にその私的コレクションを同大学に寄贈したことに起源をもつ大学付属博物館である。ディドロとダランベールらが編集した『（ 2 ）』は、ミュゼ（ミュージアム）という言葉が、芸術品などを収蔵する場所を意味するようになった例として、このアシュモレアン博物館をあげている。

現在、ロンドンのブルームズベリー<sup>(b)</sup>にある大英博物館も私的なコレクションが発展したものである。医師でイギリス王立協会会長であったスローンは、7万点をこえるコレクションが死後に散逸することをおそれ、遺族に一定の金銭が支払われることを条件に、これらをジョージ2世<sup>(c)</sup>に遺贈した。議会は1753年の博物館法によって、スローンの収集物と他の個人収集家の蔵書などをあわせておさめる博物館の設立をきめた。こうして設立された大英博物館は、1759年からは市民に無料で開放されたが、この方針は今日もおお維持されている。博物館が広く一般市民に開放されるべきであるという考えは、18世紀の啓蒙思想を背景とするものである。大英博物館は順調に発展し、ロンドンで第1回（ 3 ）が開催された1851年には、大英博物館の入館者数は100万人を数えたという。

大英博物館は当初より図書館の機能もあわせもっていたが、1857年には円天井の大英博物館閲覧室が完成し、多くの作家や思想家がこれを利用した。利用者記録には、ディケンズ<sup>(d)</sup>や（ 4 ）の名前がのこされている。イギリスに亡命していた（ 4 ）は、ここで『資本論』を執筆したとされる。

B 大英博物館の収蔵品のなかでも、ロゼッタ=ストーンほどその名を知られているものはすくない。これはプトレマイオス5世の善政をたたえる碑文が刻まれた石で、1799年、ナポレオンがエジプトに遠征していたとき、フランス軍によって<sup>(e)</sup>（ 1 ）東方のロゼッタで発見された。ナポレオンの遠征<sup>(f)</sup>には百数十名の科学者からなる調査団が随行しており、この発見もまったくの偶然ではなかった。1801年にフランス軍がイギリス軍に降伏したとき、フランスの調査団が（ 1 ）で収集した品々とともに、この石の帰属が英仏間であらそわれた。文化財の収集は国家の威信にもかかわったのである。結局、この石はイギリスによって持ち去られ、イギリス国王に献上された。そして国王から大英博物館に寄贈され、あらたに「1801年イギリス軍がエジプトで獲得」、「ジョージ3世により寄贈」と英文が書きこまれ、翌年大英博物館において公開された。

ロゼッタ=ストーンが発見当初から注目をあつめたのは、碑文が神聖文字・民用文字・ギリシア文字という3種類の文字で書かれていたことから、当時未解読であった神聖文字の解読に期待がよせられたからである。1822年、長年の研究のすえフランスの（ 5 ）は神聖文字の解読に成功した。

ロゼッタ=ストーンは、第一次世界大戦中、<sup>(g)</sup>ドイツ軍の爆撃をのがれるため大英博物館から移動されたことがある。また、1972年には（ 5 ）の解読150周年を記念して、パリのルーブル美術館に貸し出されたことがある。しかし、これら以外でロゼッタ=ストーンが大英博物館の門外に持ち出されたことはない。

C ロゼッタ=ストーンが発見された1799年、イギリスでは、エルギンが大使としてコンスタンティノーブルに赴任するため、ポーツマス港をたつた。ギリシア彫刻に強い関心をいだいていたエルギンは、スルタンのセリム3世からアクロポリスを調査する許可をとり、パルテノン神殿付近<sup>(h)</sup>の発掘調査をはじめた。当時の神殿は、1678年のヴェネツィア<sup>(i)</sup>による攻撃によってほぼ廃墟と化していたが、オスマン軍が要塞として使用しており、許可なしに立ち入ることはできなかった。ところが、エルギンは許可状の「碑文または彫刻のある石のかけらを持ち帰ること」ができるという一文を拡大解釈し、パルテノン神殿からつぎつぎに彫刻をひきはがし、私財を投じてこれらをイギリスに持ち帰ったのである。

後にギリシア独立戦争に身を投じることになるロマン派の詩人（ 6 ）は、  
〔ミネルヴァの呪い〕<sup>(j)</sup>のなかで、410年にローマを荒らした西ゴート王アラリックとエルギンの名をならべ、彼の窃盗行為を糾弾した。エルギンはこうした国内の批判や彫刻の輸送などによって生じた多額の負債から、これらの彫刻を1816年にイギリス政府に売却した。翌年から、これらは大英博物館においてエルギン=マールとして公開されることになる。

D ギリシアはオスマン帝国からの独立をはたすと、パルテノン神殿をとりまくトルコ風建築物を取り壊すなどして、アクロポリスの復旧につとめた。19世紀以来ギリシア政府はエルギン=マールの返還を求めつづけているが、イギリス政府はこれに応じていない。

パルテノン神殿の彫刻は、博物館で管理されたからこそ良好な状態で保存されたという見方がある一方で、彩色されていた彫刻を学芸員が白くなるまで洗浄したという疑惑もあって、奪われた文化財は返還されるべきであるとの見方もある。1970年には文化財の不法な輸出入を禁止する条約が国際連合の専門機関<sup>(k)</sup>において採択されたが、この条約は遡及しては適用されず、過去の事例については当事国が話し合いで解決するほかない。

パルテノン神殿の彫刻だけでなく、ロゼッタ=ストーンもまた返還要求の対象となっている。2003年大英博物館は250周年をむかえたが、この年エジプトはイギリスにロゼッタ=ストーンの返還を求めたのである。いま、大英博物館をはじめとする世界の博物館は、人類の共有財産の保管者として、その普遍的な役割がとわれている。

設問1 空欄（1～6）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、（4）（5）（6）には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。プトレマイオス朝の時代に地球の周囲の長さを計測した科学者は誰か。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アルキメデス                      ② アリスタルコス
- ③ アリストテレス                    ④ エラトステネス
- ⑤ エウクレイデス

設問3 下線部(b)について。20世紀前半にブルームズベリーを拠点に活動したグループのひとりで、『雇用・利子および貨幣の一般理論』を著し、国家が積極的に経済に介入して景気回復をはかるといふ修正資本主義政策の端緒をひらいた経済学者は誰か。その名前を答えなさい。

設問4 下線部(c)について。ジョージ2世の意向に反して辞任し、責任内閣制の発達に貢献した首相は誰か。その名前を答えなさい。

設問5 下線部(d)について。ディケンズが書いた小説の題名を1つ答えなさい。

設問6 下線部(e)について。ナポレオンがエジプトに遠征した目的を20字以内で述べなさい。

設問7 下線部(f)について。ナポレオンの遠征に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. イタリア派遣軍司令官としてイタリア共和国を破った。

い. オーストリア・ロシア連合軍をアウステルリッツの戦いで破った。

う. プロイセン・オーストリア連合軍を破り、ワルシャワ大公国を建てた。

設問8 下線部(g)について。第一次世界大戦中の出来事に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. フランスでは、対独強硬論のクレマンソー内閣が成立した。
- い. イギリスでは、ロイド=ジョージ蔵相が社会上層への税負担を増やした。
- う. ドイツでは、水兵がキール軍港で蜂起した。

設問9 下線部(h)について。パルテノン神殿のアテナ女神像を制作した彫刻家は誰か。その名前を答えなさい。

設問10 下線部(i)について。ヴェネツィアに関するつぎの記述のうち、誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 東方貿易で栄え「アドリア海の女王」とたたえられた。
- ② シェイクスピアはヴェネツィアを舞台とする喜劇を書いた。
- ③ ヴェネツィア商人は第4回十字軍に資金を提供した。
- ④ スペインと連合し、プレヴェザの海戦でオスマン軍を破った。
- ⑤ プロイセン=オーストリア戦争のさいにイタリヤ王国に併合された。

設問11 下線部(j)について。ギリシア独立戦争に関するつぎの記述のうち、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 独立戦争はエジプト=トルコ戦争の影響をうけてはじまった。
- ② ダavidは独立戦争を題材に『キオス島の虐殺』を描いた。
- ③ ロシア・オーストリアはギリシアの独立を支援した。
- ④ 1830年のロンドン会議で列強はギリシアの独立を承認した。
- ⑤ イギリスのナイチンゲールは戦場で負傷者の看護にあたった。

設問12 下線部(k)について。1946年、文化協力をつうじて世界平和に貢献するために設立され、パリに本部をおくこの専門機関は何か。その名称を答えなさい。



